

## 2023年度図書館研究奨励賞報告

### 図書館研究奨励賞選考委員会

図書館研究奨励賞は、故森耕一理事長が拠出された基金によって1990年度に設立されたもので、機関誌『図書館界』に掲載された「論文」、「現場からの提言」、「研究ノート」を作成した若手あるいは中堅の研究者が授与対象となっている。

「現場からの提言」、「研究ノート」が選考対象となっていることから明白なように論文の体裁の完成度を評価するものではなく、「研究」そのものを評価するものである。特に研究の「革新性」、「伸びしろ」、「ひらめき」、「オリジナリティ」、「現場に役に立つ」ことなどを選考基準としている。基礎的な研究ももちろん評価されるが、当研究会の図書館改革に関する実践的役割から実務に資する点が評価されることが特徴である。

選考対象は選考時当研究会の会員であって、「若手あるいは中堅の研究者」である。研究実績のあるベテランの方、例えば論文の「謝辞」に氏名が掲載されている方や名誉教授の方、ある程度の年齢で正規の教員の方、また他の学会等の受賞者などは除外される。2023年度の選考対象となる論文等は、2021年11月号(73巻4号)から2023年9月号(75巻3号)に掲載されたもので、対象者は3名(論文4、研究ノート1、現場からの提言0)であった。

賞の選考委員会は、例年6月の理事会において承認される5名で構成される。今年度は、外部選考委員として國學院大學の須永和之先生を含め、志保田務監事、嶋田学理事、奨励賞担当理事の久野和子、委員長の常世田良の5名であった。賞の選考は、選考委員会と会員の推薦によって行われることから、例年『図書館界』5月号に、奨励賞へのご理解と会員からの自薦、他薦のお願いを掲載し、11月号では当該年度の自薦・他薦の依頼を掲載している。

選考作業は、例年概ね以下の状況であり、2023年度も同様であった。

10月に上記条件に合致する掲載論文等を選択。

各選考委員は1月中旬に各自の評価を担当理事へ提出。

その後メール上で各評価をもとに討議し、総合評価の合算によって受賞者を決定。

2月の理事会に選考委員会の決定結果を提案し、承認。

2023年度の受賞者は、『図書館界』75(1)に掲載された「大学図書館の利用教育に対する学部生の認識」(論文)の筆者である西浦ミナ子氏である。表彰式は3月9日の研究大会において挙行された。

#### 選考委員による講評

##### 評価できる点

先行研究にもとづいた適切な分析と考察などが実証的であり評価できる。

下級生より上級生の方が情報リテラシーの重要性と必要性をより認識していること、授業内での利用教育の方が「より高いレベルの情報リテラシーの体得が望めること」、「上級生の方が下級生よりも自主的に図書館利用教育に参加する可能性が高いこと」など、これからの図書館利用教育に役立つ新たな指摘がなされており、評価できる。

本来当該論文は、大学図書館を教員の立場と学生の立場から捉えようとする一つの論文を分離したものであって、教員と学生を統合的に扱おうとした点で評価できる。

##### 課題

回答者数248は、一般的な社会調査であれば十分な数値であるが、研究者本人も認めているように、国立大のサンプルがないなど「大学種別と規模の面で偏り」があり一般化には課題がある。

回答者を受講科目でカテゴリー化しているが、それぞれのカテゴリーの数が均一でないため比較は難しい。

「特定の分野の授業を履修する学部生を対象」にした調査手法には限界が存在する。

上記の課題のため、本研究の調査結果を一般化することは難しい。

授業内での調査のため学生側の配慮(付度)の可能性も否定できない。

##### 期待する点

上記の課題に関して補完するエビデンスを求める。

研究の次の段階として、教員、学生ばかりでなく理事者、非正規派遣職員なども含め、かつ欧米の大学図書館との(教学の在り方の違いなども加味した)比較など、研究の継続を期待する。

受賞者選考の最終段階であった年末に、委員であった志保田務先生が突然ご逝去された。

選考委員各自にとって大きなショックであったとともに、委員会として大きな損失であった。選考作業が終盤であり情報交換において先生が評価を表明されていたことから御意思を最終選考へ反映させることができたことは、ほんのわずかではあるが幸いなことであった。

志保田先生が研究奨励賞の進展に関してはもちろん、当研究会の活動を支え発展させたばかりでなく我が国の図書館界に大きな足跡を残されたことを記憶にきざみたい。

こころよりご冥福をお祈りいたします。

(2022年度、日本図書館研究会図書館研究奨励賞選考委員会：  
委員長・常世田良、担当理事・久野和子)

## ◆図書館を学ぶ相互講座◆ ～2024年度ご案内～

**会場**：大阪府立中之島図書館 別館 2階  
大阪市北区中之島1-2-10

**連絡先**：図書館を学ぶ相互講座実行委員会  
shoininkobe1892@gmail.com  
(中村 恵信)

本講座は大阪府立中之島図書館との共催事業です。

### 2024年度〈第2回〉

**日時**：5月25日(土) 10:00～12:00

**テーマ**：近年の文芸作品にみる図書館観・関連領域からの検討も視野に

**発表者**：佐藤 毅彦氏(甲南女子大学)

(図書館サービス研究グループ5月研究例会と共催)

### 2024年度〈第3回〉

**日時**：6月29日(土) 10:00～12:00

**テーマ**：故志保田務博士の晩年の取り組み一遺された資料の分析から見えてきたもの

**発表者**：前川 和子氏(桃山学院大学特別研究員)

(図書館学資料保存研究グループ6月研究例会と共催)

### 2024年度〈第4回〉

**日時**：7月27日(土) 10:00～12:00

**テーマ**：松阪での小津安二郎の姿

**発表者**：岩岡 太郎氏(小津安二郎松阪記念館)

(図書館学資料保存研究グループ7月研究例会と共催)

### 2024年度〈第5回〉

**日時**：8月24日(土) 10:00～12:00

**テーマ**：政令都市となった堺市と地域図書館

**発表者**：松井 孝氏(元堺市立図書館)

**司会**：竹田 芳則氏(奈良大学)

(図書館学資料保存研究グループ8月研究例会と共催)

※不測の事態による変更があり得ます。

最新情報は下記サイトでご確認ください。

<https://www.library.pref.osaka.jp/site/nakato/seminar-lib.html>

※志保田務前委員長の急逝にともない、藤間真が実行委員長に就任しました。